

平成21年度学校体育振興事業
「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校
研究報告書

がっこうめい 学校名	こうし しりつ にしごうしみなみ 合志市立西合志南中学校
---------------	---------------------------------

校長名：増永幸一郎

所在地：熊本県合志市須屋2956番地

電話番号：096-242-3733

地域指導者と連携した剣道の授業づくりについて
の研究

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

合志市は、平成18年2月27日に合志町と西合志町が合併してできた新市である。熊本市の北東部に隣接し、総面積53.17km²、人口は54,525人（平成21年4月末現在）である。本校近くには九州沖縄農業研究センター、県立農業研究センター等、先進的な研究機関があり、基幹道路である熊本電鉄沿線には、電子産業を中心とした関連企業がI C・半導体素子などを製造しており、活力豊かな地域である。

本校は人口の急増に伴い、昭和55年4月、西合志中学校から分離独立した。現在24学級に776名が在籍している。生徒達は学習だけでなく、体育大会や文化発表会、合唱コンクール等に積極的にはつらつと活動している。また、部活動も盛んであり、今年度は剣道・柔道・新体操競技が全国大会に、野球部・吹奏楽部が九州大会に出場するなどの活躍を見せている。

本校の保健体育科では用具等の関係で男子のみ柔道の学習を行ってきた。しかし、新学習指導要領の全面実施を控え、剣道の授業実施の必要性が出てきた。また、女性教員が剣道の指導を行う可能性もあるが、剣道未経験

である。ここ合志市は近年剣道が盛んになってきており、剣道の指導者も増えつつある。今回はその剣道の指導者と連携して剣道の授業づくりをすることにした。

2 学校の概要（平成21年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	7	7	7	3	24	
生徒数	男	121	115	160	7	403
	女	126	132	104	11	373

教員数 48名（保健体育科 6名）

武道・ダンスの授業の状況

領域：武道 領域の内容：剣道

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	9	0	0	0	9	
担当教員数 (外部指導者)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	
生徒数	男	121	0	0	0	121
	女	126	0	0	0	126

領域：武道 領域の内容：柔道

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	0	9	12	0	21	
担当教員数 (外部指導者)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	
生徒数	男	0	115	160	0	275
	女	0	0	0	0	0

領域：ダンス 領域の内容：現代的なリズムのダンス

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	3	11	6	0	20	
担当教員数 (外部指導者)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (0)	
生徒数	男	0	0	0	0	0
	女	126	132	104	0	362

II 研究の内容及び成果等

【研究の成果の要点】

地域の指導者と連携した専門的な指導を行ったことで、剣道の特性や良さに触れる学習を展開することができた。

1年では、全日本剣道連盟が作成した「木刀(竹刀)による剣道基本技稽古法」を取り入れた学習を行うことで、剣道に不安感を持っていた生徒達も抵抗無く授業に参加できた。

剣道の防具と竹刀が整うことで、生徒の興味をより引き出すこともできた。

剣道の経験がなかった女性教員が地域の指導者と一緒に授業づくりをしたことで剣道の指導のポイントや本質を肌で感じ、剣道の本当のすばらしさに指導者自身も出会うことができた。

1 研究主題等

(1) 研究主題

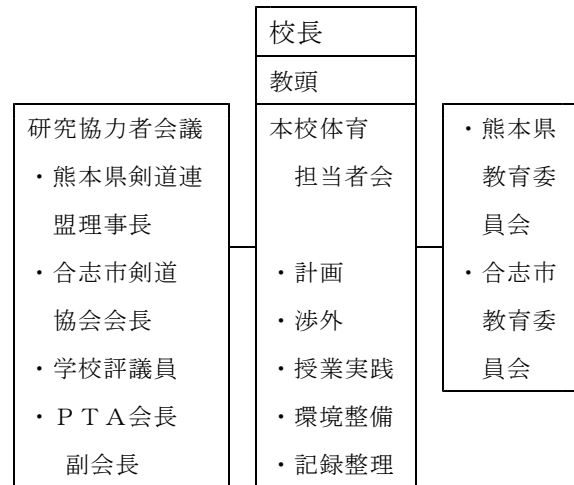
中学校における剣道学習の進め方
～剣道のすばらしさに触れさせる
授業づくりを目指して～

(2) 研究主題設定のねらい

剣道の学習を始めるに当たり、生徒達は、きつい、怖い、痛いなどの不安がある。剣道の特性を知り正しく学べばその多くは払拭されるはずである。そのため、初心者でも剣道の特性に触れやすいように1年生では全日本剣道連盟が作成した「木刀(竹刀)による剣道基本技稽古法」を取り入れ、剣道の基本となる技や礼儀・集中力などの心構えを学ばせる。その為には専門的な指導が必要であり、本年度は地域にいる剣道有段者に協力を依頼し、剣道の経験が少ない女性教員と連携して指導する。そのことで剣道への抵抗が少なくなり、男子だけでなく女子に対しても効果的な学習ができる

と考える。

(3) 取組体制



(4) 主な取組

平成21年度	研究協力者会議 10月:研究の目的と方向性確認 11月:授業の具体的内容の検討 剣道講話 12月:地域の指導者による剣道講話及び剣道形の演武披露 授業の実践 11月～12月:1年男子 12月～1月:1年女子、地域指導者と連携武道(剣道)の研究授業 12月:1年男子、高木教諭 1月:1年女子、前田教諭、地域指導者 郡市教科等研究会を兼ねて実施
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 剣道の地域指導者と連携した授業づくり

① 具体的な研究課題

地域の指導者とどのように連携して授業づくりをしていくのか。

地域指導者とどのような役割分担をし、効果的な指導を行うか。

② 取組

ア 地域指導者の依頼と打合せ

熊本県剣道連盟や合志市剣道協会に

相談したところ、本校近くで活躍している剣道の指導者を紹介してもらえた。仕事をもっているため、早めに授業の予定を伝え仕事を調整していただいた。計27時間の剣道授業の内15時間に指導の協力が得られた。1年生の保健体育科の授業を金曜にまとめ、更に2・3・4校時と連続して時間割を組んだ。

イ 学習の中での役割の明確化

剣道の技術指導は地域の指導者が行い、それ以外は担当教員が行う。個別指導は2人で行うと



いう役割を 2人での指導
明確にした。

初めて取り組む学習内容では、T1とT2を交代してT2が説明・見本、T1が分かりやすく解説し、練習の仕方や進め方を示範しながら行った。あらかじめ予想されるつまづきについては、どのように支援するのか打合せを行い、一斉指導の中で解決を図った。

③ 成果・課題

地域の指導者と連携し、剣道の専門的な指導を行うことによって、生徒が剣道のすばらしさを感じる事ができた。また、剣道の指導が未経験であった女性教員が、専門的な指導を地域指導者と協力して行ったことで、支援のポイントを身に付け、剣道の指導に自信をもつ事ができた。

地域の指導者には仕事を休んでもらうなど、かなり負担をかけてしまった。その為、授業の打合せが不足した。地域の指導者に協力を得るには打合せなどの時間確保の工夫が必要である。また、仕事

を休んで協力してもらうとなると、手当などの配慮が引き続き必要だと感じた。

(2) 「木刀(竹刀)による剣道基本技稽古法」を取り入れた単元計画の作成と授業実践

① 具体的な研究課題

効果的な指導のため「木刀(竹刀)による剣道基本技稽古法」を取り入れた指導計画をどのようにつくり指導するか。

② 取組

ア 木刀(竹刀)による剣道基本技稽古法



胴打ちの練習する生徒

	技の分類	構成	1年学習
1	一本打ちの技	正面、小手、胴	○
2	二・三段の技	小手→面	○
3	払い技	払い面	
4	引き技	引き胴	
5	抜き技	面抜き胴	○
6	すり上げ技	小手すりあげ面	
7	出ばな技	出ばな小手	
8	返し技	面返し胴	
9	打ち落とし技	胴打ち落とし面	

木刀(竹刀)による剣道基本技稽古法の構成

この稽古法は、上記のような全部で9つの基本技で構成されており、新学習指導要領で示された内容と重なる部分も多い。また、剣道の防具が無くても剣道の特性が学べるという利点がある。本校では剣道の防具を揃えることはできたが、あえて1年時においてはこの稽古法を取り入れた。それは、小手と面を着けないので初心者にとっては抵抗感が少なく剣道の技を学ぶことができる。そして、着装の時間が省略できるので、その分基本技の学習時間が確保できると考えたからである。し

かし、この稽古法をすべて指導するにはかなりの時間が必要になる。そのため本校の実態に合わせて下記の点を変更して指導した。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> a 作法を簡素化する。 b 学習指導要領に従い学年の実態で技を選んで実施する。 c 木刀の代わりに竹刀を使う。 d 胴打ちは実際に打突する。 |
|---|

授業に生かす工夫と変更点

1年生では基本の動作と「剣道基本技稽古法」を取り入れ、2年からは全ての防具を着用しての学習を計画した。

1年	2年	3年
垂と胴を着けて基本動作や基本となる技ができるようになる。	全ての防具を着けて基本動作や基本となる技が出来るようになる。	身に着けた基本動作や対人的技能を生かし、攻防の展開を楽しむ。
礼儀作法 自然体、中段の構え、体(足) 裁き ◎木刀(竹刀)による 剣道基本技稽古法 ・1本打ちの技 「面、小手、胴」 ・二段の技 「小手一面」 ・抜き技 「面抜き胴」	打突部位を打ったり受けたりする ・二段の技 「小手一面」 「面一面」 ・引き技 「引き面」 ・抜き技 「面抜き胴」 「小手抜き胴」	・二段の技 「小手一面」 「面一面」 ・引き技 「引き小手」 ・出ばな技 「出ばな面」 「出ばな小手」 ・払い技 「払い面」 「払い小手」 ・すりあげ技 「小手すりあげ面」

剣道の単元計画

次	学習活動
1	オリエンテーション
2	自然体、中段の構え、足さばき、正面素振り
3	跳躍素振り、正面(竹刀)打ち、小手打ち
4	着装(垂、胴)、作法、胴打ち
5	木刀による基本技稽古法①面、残心
6	木刀による基本技稽古法②小手、二段の技「小手一面」
7	木刀による基本技稽古法③胴、応じ技「面抜き胴」
8	判定試合・評価・反省

1年時の学習の計画

③ 成果・課題

「木刀(竹刀)による剣道基本技稽古法」を取り入れたことで、剣道に不安感をもっていた生徒達も安心して学習でき

た。また、基本の技能や残心などの技能をほとんどの生徒が身に付けることができた。次年度の防具を着用した学習にどのようにつなげるかがこれからの課題である。

(3) 意欲を高め、基礎的・基本的な内容を定着させるための指導方法の工夫

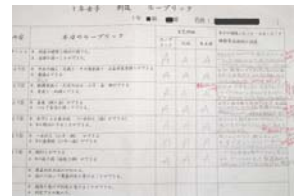
① 具体的な研究課題

初心者でも意欲をもち、基礎的・基本的な内容の定着が図ることができる指導をどう工夫するか。

② 取組

ア ループリック

単元計画に基づきループリックを作成した。本校で



はループリックを

ループリック

「評価規準や基準を示したもので、到達目標が分かりやすく学習活動の見通しをもちやすくするもの」ととらえた。授業後に自己評価を行ない、指導者は必要に応じ適時アドバイスを行う。

イ 分かりやすい資料の提示

説明時に、基礎的・基本的な内容が理解しやすいように視覚資料



を用いた。 掲示資料を用いての説明

また、学習で使用した資料は剣道場に掲示し、振り返りがしやすいようにした。

ウ 一斉指導と個別指導のスパイラル

前時の復習を準備運動の中に取り入れる。更に本時の学習では、ねらいが達成できるよう①一斉指導②指導者と生徒③生徒同士④一斉指導⑤生徒同士と学習形態を変えながら一斉指導の中

に個別指導をタイミング良く入れていく。また、ループリックBを生かしてループリックAにチャレンジできるように学習のめあてを設定しスパイラル型で学習できるようにした。

③ 成果・課題

一斉指導と個別指導を状況により組み合わせることで基本的な内容が身に付き、運動が苦手な生徒も前向きに取り組むことができた。

視覚資料を用いたことで、理解に必要な生徒にも確実な理解を図ることができた。

ループリックを活用し学習活動を明確に示したことで、めあてがもちやすくなり、意欲的に活動することができた。

(4) 剣道講話の実施

① 具体的な研究課題

剣道に親しみをもたせるための「剣道との出会い」をどうするのか。

② 取組

剣道の実際の技に触れるとともに、剣道の経験者から剣道の特性を聴く機会をつくるため剣道講演会を開いた。当初は1年男女を一同に集めて行う予定



講師の講話

であったが、新型インフルエンザ流行のため延期になり、学習単位である学級毎の講話となった。



日本剣道形と剣道の演武披露

日本剣道形	蓑田 三嶋
防具の説明・模範立会	蓑田 三嶋
講話「剣道を始めるにあたって」	蓑田
～剣道の歴史、すばらしさ、大切にしたいこと など～	

剣道講演会の内容

③ 成果・課題

今も剣道が続けている方の生の声を聞き、更に迫力ある剣道を実際に見ることができ「かっこいい」「私もやってみたい」という感想も多く、剣道学習の良い意欲付けとなった。特に女子生徒にとっては、身近な女性2人の演武は「剣道は女性でもできる」という驚きと安心感を与えた。

(5) 学習環境の整備

① 具体的な研究課題

本校には剣道の授業に必要な用具はなかった。授業実践の為には、それらの確保が必要である。

② 取組

今回剣道防具40組を購入した。防具に合わせて棚も購入し、管理方法を工夫することで出し入れを簡素化し時間の効率化を図った。

③ 成果・課題

剣道防具と竹刀が整うことで、生徒の興味をより引き出すことができた。胴の学習では実際に打突することで、集中力と意欲を高めることができた。

剣道場が縦11m横11mで40名が活動するには狭い。胴打ちなど横の生徒に竹刀が当たる場面も見られ、安全面での配慮が常に必要であった。合志市では、武道場の建て替え等について検討を始められたところである。

3 研究成果の普及

1月19日の菊池郡市
教科等研究会の授業研
究会を兼ね、本校で剣
道の授業を行った。菊
池郡市保健体育担当に



授業研究会

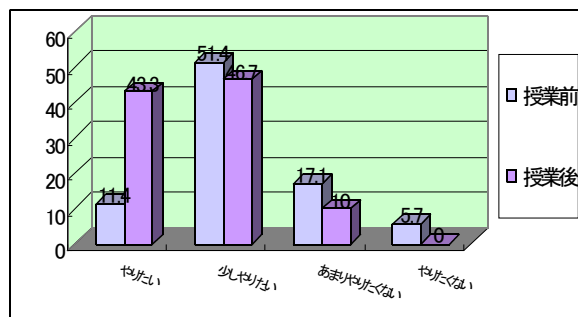
は剣道の専門家も多く、充実した意見交換を行うことができた。

合志市体育主任会で剣道の授業実践を行った女子の体育主任が、今回の実践と研究成果を発表した。

熊本県剣道連盟や合志市剣道協会、本校の評議員・PTA役員にも授業研究会への参加を呼びかけ、間近に迫った新学習指導要領の全面実施と、剣道の授業の啓発ができた。

4 今後の展望

1年3組4組女子が剣道の学習を終えて意識調査を授業の前後に行った結果である。



生徒の授業前後の意識

学習前には62.8%だった「やりたい」「少しやりたい」という剣道授業への感想が授業後には「やりたい」「少しやりたい」の合計が90%に増え、「あまりやりたくない」「やりたくないが」が22.8%から10%に減少した。

- ・良い例と悪い例を、見比べることができたので分かりやすかったです。
- ・前と比べて剣道の見方が変わった。礼儀は多くの場面で使えるので、できるようになりたいです。痛そうと思っていたけど、胴を着けているから痛くないし、きついけどとても楽しかったです。

授業後の生徒の感想

解答イメージ	学習前	学習後	変動
かつこいい	20	26	+ 6
集中力が必要	22	24	+ 2
礼儀を大切にする	21	21	0
強そう	10	13	+ 3
痛そう	10	8	- 2
きつそう	22	7	-15
相手を大切にする	2	6	+ 4
こわい	10	6	- 4

剣道に対するイメージ (35名対象)

剣道は「こわい」「痛い」といった意欲を阻害するイメージもあったが、授業後はそれが減少し「かつこいい」「相手を大切にする」といったプラスの考えが増えた。

また「真剣になれる」が18人「楽しい」が10人といった感想もあった。今回の取り組みで、生徒が剣道のすばらしさに触れることができたと思えることができる。

授業研究会に参加された先生方のアンケートでは、「生徒は積極的に活動できていたか」の問いに、全員が「そう思う」という結果であった。そして次のような感想があった。

- ・剣道の指導はかなり専門性が高くなるため、力量のある地域指導者に力を借りて指導に当たることはとても良いことで推進すべきだと思います。
- ・私は中高大と剣道に関わったことが無く、今、剣道の授業をしています。ものすごく難しく全く自信がない状態です。前田先生は初心者とは思わせないメリハリ・気迫のあるすばらしい授業で、ものすごく勉強になりました。

授業研究会に参加された方の感想

女性教員はこれまで剣道の経験はなく、今年夏に行われた県教委主催の剣道指導者養成講習会を受けただけである。今回、地域の指導者と一緒に授業づくりをしたことで、剣道の指導のポイントや本質を肌で感じ、指導者としての資質を充分向上させることができた。また、剣道のすばらしさ、真剣・礼儀等を子ども達に身に付けさせたことで、生徒達がきりっと引き締まり、言わずとも背筋を正す

姿を目にすることができた。併せて、剣道の持つ本当のすばらしさに指導者自身が出会うことができ、新学習指導要領で指導することの意義を強く感じることもできた。

本年度は1年生の実施であったが、来年度から本年度の研修を生かし、2年生・3年生に広めていく。1年生は竹刀を使った剣道技稽古法を中心に組み組んだので、徐々に指導内容の充実を図っていきたい。

「参考文献」

- ・中学校武道の必修化を踏まえた剣道授業の展開
- ・木刀による剣道基本技稽古法 全日本剣道連盟